

～身近な生き物を見つけよう～

さっぽろ生き物さがし2025

★ さっぽろ生き物さがし2025について

札幌市では、毎年春から秋にかけて、市内の自然環境の状況を把握するために、指標となる生き物を市民みんなと調べる「一斉調査」を実施しています（2015年度から継続実施）。今年度は5月上旬に例年より少し早めにスタートして、9月までの152日間の調査を実施しました。今年度も多くのお申込みをいただき、今回の対象グループである右図の6つのなかまを中心に調査することができました。

● 今回の調査対象の生き物たち ●

チョウのなかま

マルハナバチのなかま

トンボのなかま

カモのなかま

セミのなかま

草やつつの実



★ 調査結果の概要について

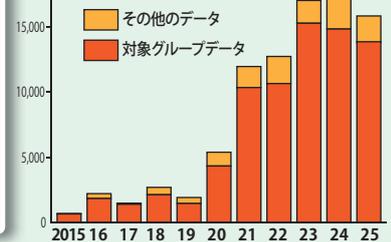
参加申し込みは**797チーム**、最終的に**303チーム**、約**1,600名**もの方から結果報告があり、**15,710件**（対象種13,647件）のデータと**11,618枚**（対象種9,912枚）の写真いただきました。

調査した地区数は**411地区**となり、市内の34%の地区を調査することができました。

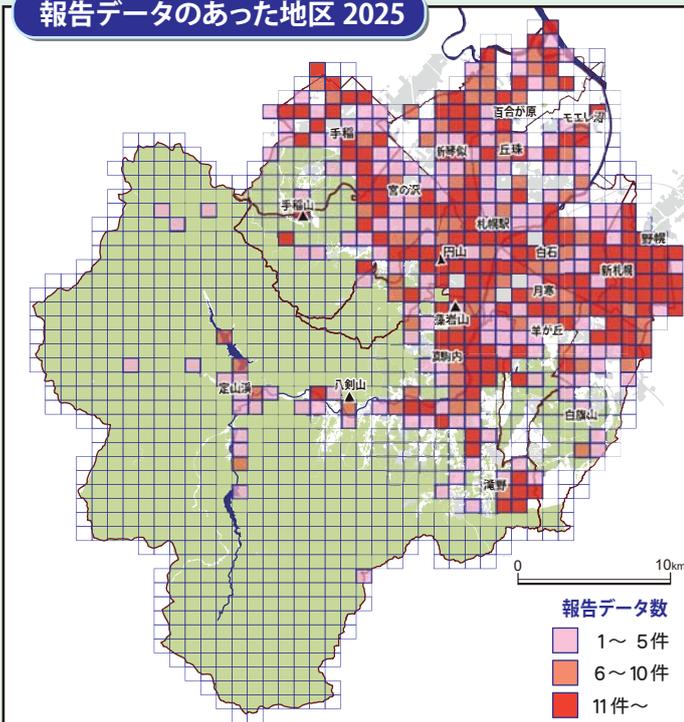
今回の調査の概要

- 調査期間 2025年5月10日～9月30日
- 対象範囲 札幌市内（1キロメッシュ数1,192）
- 報告者数 303チーム（申し込み797チーム）
- 調査報告数 データ数15,710件
- 調査地区数（1キロ四方単位）411地区（市内の34%）

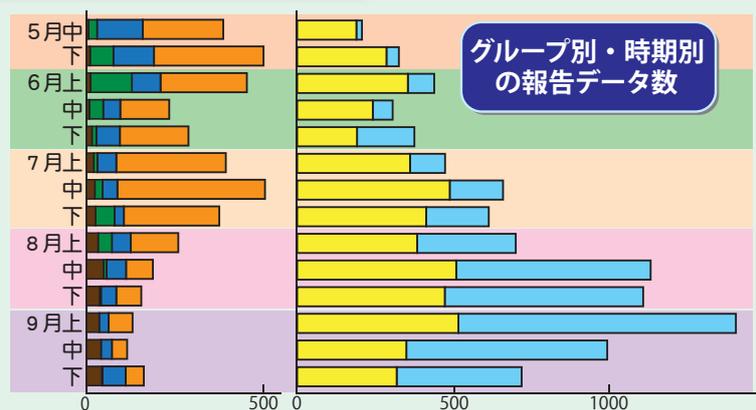
報告データ数の推移



報告データのあった地区 2025



グループ別・時期別の報告データ数



- 草の実のなかま 358件
- マルハナバチのなかま 2,524件
- セミのなかま 387件
- チョウのなかま 5,137件
- カモのなかま 824件
- トンボのなかま 4,419件

今回もっとも多く報告があったのはチョウのなかまで、次いでトンボのなかまでした。

季節別に見ると、トンボは8月中旬以降に多くの報告がありました。セミのなかまは6月上旬と7月下旬、マルハナバチのなかまは5月下旬と7月に2回ピークがありました。

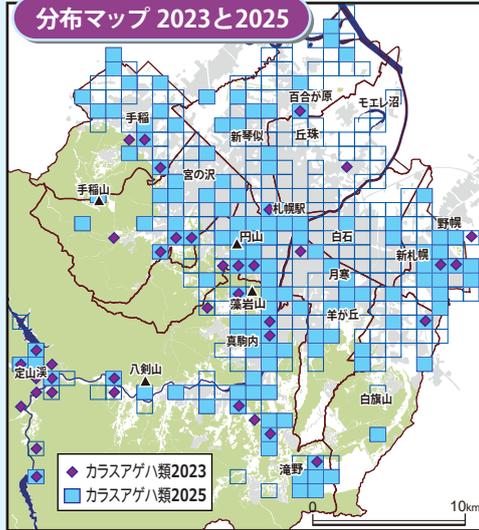
★ グループごとの結果紹介

※赤い種名は外来種です。分布図のメッシュマーク(□)はそのグループの報告があった箇所を示しています。

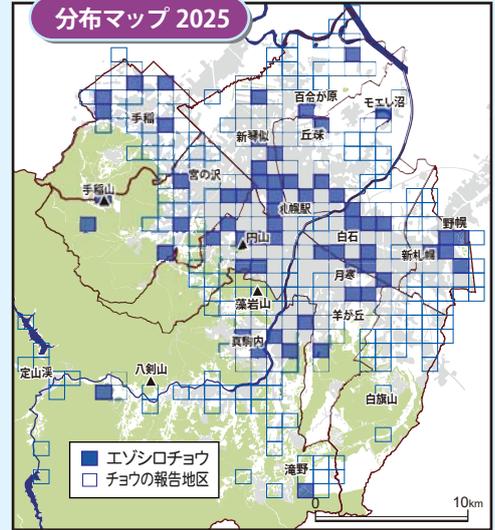
チョウのなかま

種名	地区数	データ数
・モンキチョウ	231地区	1,609
・ベニシジミ	130地区	494
・クジャクチョウ	86地区	186
・コムラサキ	25地区	42
・キアゲハ	183地区	571
・アゲハ	65地区	116
・カラスアゲハ	37地区	72
・ミヤマカラスアゲハ	55地区	107
・カラスアゲハ類	88地区	170
・モンシロチョウ	95地区	310
・エゾシロチョウ	61地区	130
・スジグロシロチョウ	27地区	49
・ミドリヒョウモン	84地区	280

分布マップ 2023と2025



分布マップ 2025



チョウのなかまは2024年は報告がやや少なくなりましたが、2025年は多くの報告がありました。特にカラスアゲハ類の報告が多くありました。

ここ数年報告数が多いエゾシロチョウは、幼虫はサクラやリンゴなどの樹木の葉を食べるため、植栽されている木に大量についているのを見かけた人も多いでしょう。分布図を見ると、植栽木が多い市街地には広く確認されていますが、山間部の確認はわずかです。

ミヤマカラスアゲハ



(おしびこ)

キアゲハ



(オニヤコマちゃん)

エゾシロチョウ



(ジャック)

カモのなかま

種名	地区数	データ数
・マガモ	108地区	576
・オシドリ	27地区	173
・カルガモ	14地区	24
・コガモ	10地区	11

オシドリ



(田中家)

マガモ



(野鳥大好き)

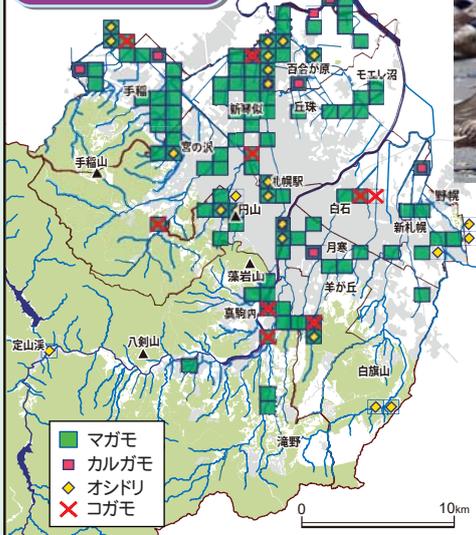


(チーム白土家)



(熊介チーム)

分布マップ 2025



カモの仲間は前回実施した2020年の倍近い情報が寄せられ、分布図が充実してきました。マガモは市街地の水辺も含めた全域で確認され、身近に親しまれる生き物の代表と言えます。

オシドリは前回から確認率が増加しており(16%⇒23%)、市内でも見る機会が増えているようです。コガモは5月前半の確認が多く、春の渡りの途中に立ち寄ったところを目撃されています。

草・つるの実

種名	地区数	データ数
・ヤマブドウ	54地区	99
・ガマ	54地区	126
・コウライテンナンショウ	27地区	57
・トチバナシジミ	4地区	8
・ツルリンドウ	2地区	5
・コクワ	13地区	16
・マタタビ	3地区	3
・ミヤママタタビ	0地区	0

コクワ

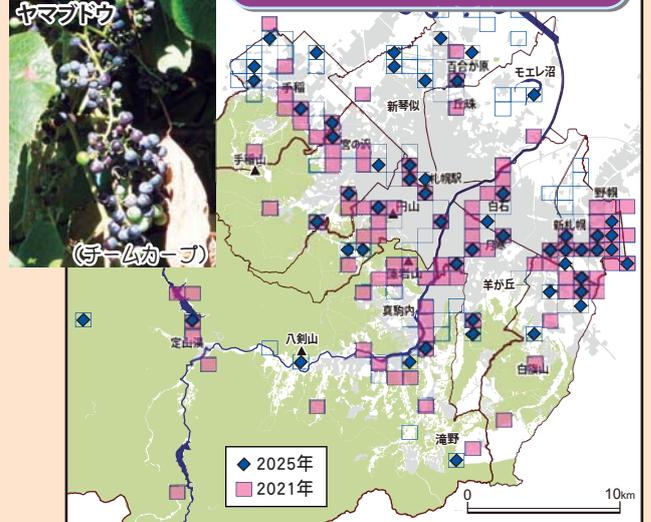


(トクミ)



(熊介チーム)

ヤマブドウの2021年と2025年のマップ

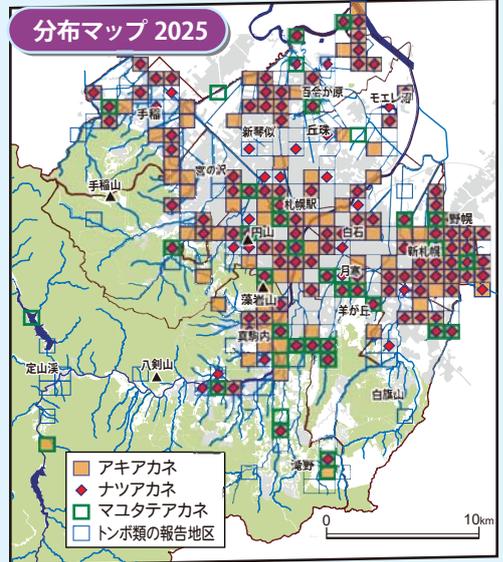
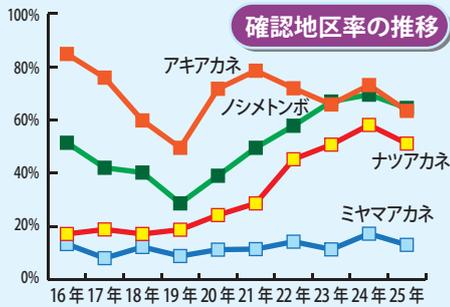


(チームカーブ)

前回対象とした2021年に比べて、全体的に報告数が少なくなりました。2025年は各地で木の実が不作となり、ヒグマの大量出沒の要因になったと言われていますが、札幌でもつるのサルナシやヤマブドウが不作となりました。これらの実は食べるとおいしいですが、実らせる植物にとってはとても大きな負担です。ときどき一斉に「お休み」の年を入れていると考えられます。

トンボのなかま

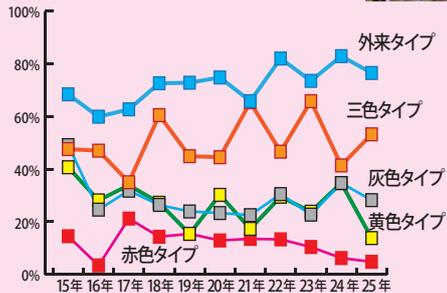
種名	地区数	データ数
・アキアカネ	166地区	1,214
・ナツアカネ	134地区	713
・ノシメトンボ	169地区	933
・マユタテアカネ	38地区	111
・ミヤマアカネ	24地区	85
・シオカラトンボ	74地区	268
・シオヤトンボ	26地区	53
・ヨツボシトンボ	17地区	30
・オニヤンマ	33地区	85
・ココニヤンマ	14地区	43
・オオルリボシヤンマ	39地区	85
・ルリボシヤンマ	22地区	48
・ニホンカワトンボ	27地区	49
・オツネトンボ	37地区	60
・エゾイトトンボ	12地区	30
・アオイトトンボ	27地区	56



今回はトンボが少ないという声を参加者の方から聞いています。アカトンボ類の確認率の推移を見ると、4種とも減少していました。これはこれまでの調査でも初めてのことで、昨年度に比べ全体的に少なかったと言えます。市の東部では前半は普通に見られましたが、後半になり急に姿が見られなくなった印象でした。

マルハナバチのなかま

種名	地区数	データ数
・外来タイプ	187地区	1,211
・三色タイプ	130地区	620
・灰色タイプ	69地区	556
・黄色タイプ	34地区	83
・赤色タイプ	12地区	22

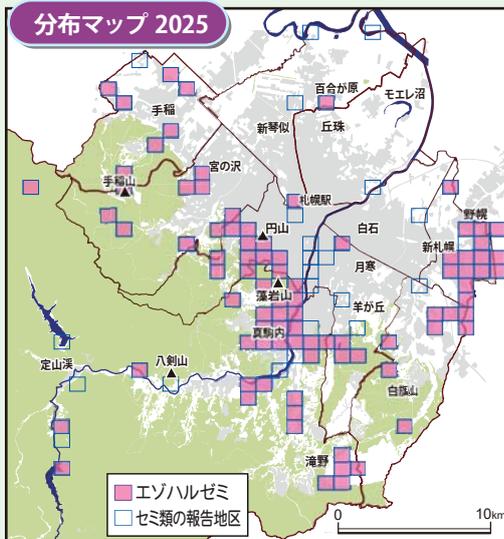


2024年は全道的にマルハナバチ類が少なかったですが、2025年はやや回復しました。体感的にはまだまだ低水準ですが、三色タイプは市内の分布範囲が回復しました。また、2015年からの推移を見ると、外来タイプの分布範囲が増減を繰り返しながら増加してきています。特に元々少なかった真駒内から定山溪にかけてのエリアで、毎年確認されるようになってきました。



セミのなかま

種名	地区数	データ数
・エゾハルゼミ	91地区	257
・コエゾゼミ	11地区	12
・エゾゼミ	0地区	
・アカエゾゼミ	0地区	
・ツクツクボウシ	20地区	69
・アブラゼミ	21地区	30
・ミンミンゼミ	9地区	9
・ヒグラシ	2地区	2



エゾハルゼミは、前回調査した2020年の約2倍と、多くの場所で確認されました。市街地でも声の報告がありますが、山の方から飛来してきているようです。

夏のエゾゼミ類は今年は非常に少なく、エゾゼミやアカエゾゼミの報告はありませんでした。一方でツクツクボウシは前回より報告地区が増えています(8%⇒18%)。

★ 参加チームのランキング発表!

今回参加いただいたチームの報告数ランキングを発表します。上位チームには、限定グッズをお送りします!

報告数 (今回対象のグループ) ランキング

順位	チーム名	報告データ数	報告地区数	参加人数	順位	チーム名	報告データ数	報告地区数	参加人数
1	AF 発見隊	3113	24	2	11	チーム白土家	228	29	2
2	星のワイルドガーデン	1408	42	2	12	キクイタダキ	175	9	2
3	オニヤンマさん	1187	103	4	13	青時雨	166	12	1
4	チームカーブ	996	58	4	14	田中家	151	25	2
5	熊介チーム	739	33	2	15	ほりこし家	131	26	4
6	海ち	655	6	3	16	龍朱緋婆 2025	130	25	4
7	テト	464	38	3	17	西岡さんぼボラ	119	1	5
8	生き物大好き	373	11	3	18	月寒生き物調査会	116	13	2
9	野鳥大好き	286	28	4	19	さゆっち	107	15	4
10	昆虫アミーゴ	243	18	3	20	あまちゃん	105	12	1

今回はオオカマキリの報告が13件ありました。2024年は2件、その前は2年とも0件だったので、飛躍的に増えています。オオカマキリは道内では函館周辺でのみ確認されていた虫ですが、2025年は札幌周辺で多くの報告があり、新聞記事にもなりました。気温の上昇の影響か、今後も注目です。



(ゆら)



(横山ファミリー)

★ 写真コンテスト結果発表!

参加者の皆さんには計11,618点もの写真をお送りいただきました。今年度の写真コンテストは、ウェブサイト(1/7~2/2開催)とイオンモール札幌平岡店でのイベント(1/24~25開催)で投票いただきました。ここでは上位5作品と特別賞のチームの写真を紹介します。これらのほか、きれいな写真を参加記念品のシールに使わせていただきました。



1位: ナツアカネ 224点

(りぼ・ライトイヤー)

対象以外の生き物も多くの写真をいただきました!



ツチハンミョウのながま

(あかあか)



エゾシカ

(キクイタダキ)



2位: キアゲハ 177点

(月寒消防クラブ)



3位: ヨシアキトンボ 167点

(月寒生き物調査会)



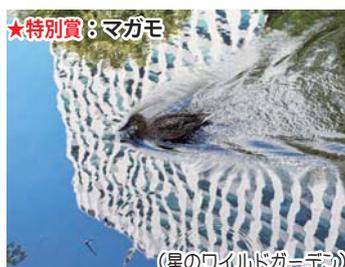
4位: ルリタテハ 114点

(ドラゴンフライ)



5位: オシドリ 77点

(ババムート)



★特別賞: マガモ

(星のワイルドガーデン)



★特別賞: マガモ

(トクミ)



★特別賞: アブラゼミ

(オニヤンマさん)



★特別賞: モノサシトンボ

(熊介チーム)

※ここでは掲載用にサイズ・形状を揃えています。

★特別賞: 「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」からの特別賞

★ おわりに

札幌は2025年の夏も猛暑となり、生き物たちへの影響も出始めています。昆虫や野鳥の一部では見られる数が減っている一方で、オオカマキリやツクツクボウシのように確認数が増えているものがあります。この調査も開始してから10年となり、まとまったデータが積み重ねられてきました。今後も皆さんが多くのデータを市内各地で集めていただくことで、自然と社会について考える材料になればと思います。

今後も札幌市では、対象グループを変えたり手法を改善したりしながら調査をつづける予定ですので、ぜひ参加していただければと思います。

X(旧Twitter)でも情報発信しているのでフォローしてまいりゅー!!



カッコー先生の X(旧Twitter)はこちら!



札幌市の生物多様性PRキャラクター「カッコー先生」

○さっぽろ生き物さがし事務局 (さっぽろ自然調査館内)

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条7丁目1-45山岸ビル3階
電話 011 (892) 5306 ファクス 011 (892) 5318 (担当: 渡辺・丹羽)

○主催 札幌市環境局環境共生担当課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎12階
電話 011 (211) 2879 ファクス 011 (218) 5108

電子メール sapporo-ikimono@cho.co.jp

ウェブサイト <http://www.city.sapporo.jp/kankyo/biodiversity/chosa/07chosa.html>

監修・協力・写真提供 神戸 崇・道川富美子・徳田龍弘・堀 繁久

発行: 2026年3月



さっぽろ市
02-302-25-2771
R7-2-1798